

非鉄金属

日本庄延工業の経営戦略

磯部 正信社長に聞く

日本庄延工業（本社・滋賀県東近江市、社長・磯部正信氏）は、アルミニウムスラグのトップメーカー。2016年8月に非鉄総合商社・川嶋（本社・静岡県浜松市、社長・川嶋義勝氏）の傘下入りし再スタートを切った。磯部社長は「リサイクル率（生産量に対する投入比率）はこの1年で27・4%から40・5%に伸長した。循環型材料での生産は重要で更に強化したい」と話す。磯部社長に経営戦略を聞いた。（白木 毅俊）

— 足元の業容から。プレス」（投資額約5億）
「生産品目は合金・純（円）が本格的に稼働、業アルミスラグ、冷間庄延容が拡充した。消火器容アルミコイル、アルミ板器向けインパクト加工や（一般材）、インパクトブランピング加工（抜き加工品。全体の約6割は打ち）の加工部門はこの自動車関連向けで占め1年で、売り上げが56%増。21年春には、アルミ増、金額では2億円の増消火器容器需要の伸びを収となった。住宅用小型見越し新規導入した「1消火器容器で動きが見られる」600ト縦型インパクト



— 業績動向は。

「22年7月期業績は売上高が前期比39%増の41億4千万円、営業利益が

同103%増の2億500万円、経常利益が同7%増の2億2千万円。販売は微増だったが、原料増騰に伴う販価アップで増収増益だった。販売面ではコンデンサー関係は順調に推移し、コンデンサー・スラグのケース用材料およびインパクト加工も好調だった。ハード

ディスク・ハブ材やスラは売上高が前期比5%増の43億円、営業利益が1億5千万円、同期生産量が6800トを見込んで

「諸コストの上昇が続く中、加工賃の改定はせざるを得ない。年内をめざりにはアナウンスから始め、顧客と個別に交渉することになる。フェーズを問わず、アルミ展伸材を新たな展伸材に再生する水平リサイクルに挑戦している。親会社・川島グループのネットワークや協力が得られることも当社の大きな利点。

大型プレス加工部門が50%増収

リサイクル率は40・5%に伸長

ため。加工部門は消火器向けインパクト加工やブランピング（抜き打ち加工）だが、わずか1年で56%（2億円）増となった。消火器メーカーの営業戦略もあり、住宅用小量減量（計算数値）がカバーできることぐらいた

「23年7月期業績予想は。加工賃値上げは、フォーミュラー制の導入以降にずれ込みそつだりたと思う」

— 展伸材に展伸材のアルミ水平リサイクルに注力されている。アルミ展伸材の水平